

南足柄市立岡本小学校

研究テーマ：共に学ぶ子の育成～集団づくりと授業づくりを通して～

1、実践の目的

本校の学校教育目標は、「夢に向かって未来を拓く『おかもと』の子の育成」であり、目指す学校像は「生き生き学校2」である。「生き生き学校」とは、学校へ行くことが楽しみになるような学校のことを指す。そうした経験を積むためにも、本研究では児童が他者と協力しながら主体的に学校生活に関わることを目指した。そのためにも、学級経営の充実を目指し、安心・安全な学級が成立することだけでなく、児童が協働し、自ら問題解決を行う、自治的な学級集団となることを期待している。また、今年度は「コミュニケーション能力の育成」に視点をあて、児童が対話をしたくなるような授業づくりを目指すことにした。そこで、本研究テーマを「共に学ぶ子の育成～集団づくりと授業づくりを通して～」に設定した。

本市の研究テーマ『「確かな学力」の向上をめざした指導の工夫・改善』をもとに、「主体的・対話的で深い学び」を実現する学級集団づくりを推進していきたいと考える。

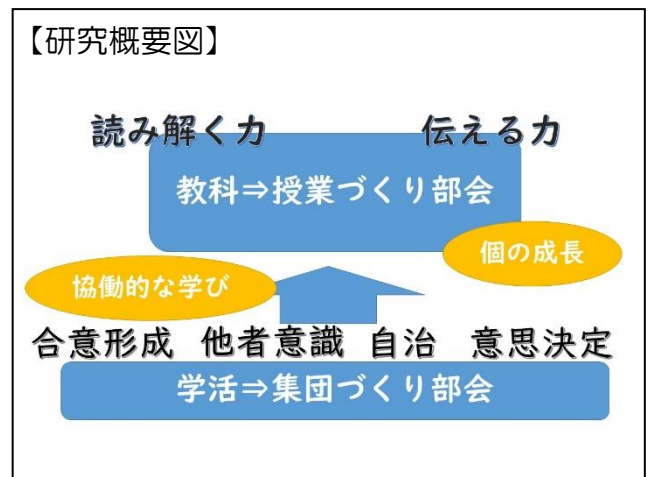
2、実践の内容

(1) 集団づくり部会と授業づくり部会の関連

今年度は、「共に学ぶ子の育成」の達成のために、学級活動を軸に、教科指導の充実を図ることとした。学級活動が土台となり、コミュニケーション能力を高めるための授業づくりを行いたいと考えた。そこで、学級

活動を通して合意形成や意思決定、自治の力を高めることについて研究する集団づくり部会とコミュニケーション能力の育成について研究する授業づくり部会を設立した。

【研究概要図】



研究を進めていく過程で、定期的に互いの部会の進捗状況を確認し合い、研究協議でも、毎回「今後の取組」を共有し合うことで、部会相互の関連性を深めていくこととした。

【研究部会における目指す児童像】

部会	目指す児童像
集団づくり部会	問題解決サイクルを回しながら、学校生活をよりよくしていく子
授業づくり部会	自分の考えをもち、共有できる子

(2) 集団づくり部会の取組

今年度より、年に5回程度集団づくりアンケートを実施し、その結果を学級会や日常の指導に生かすことに取り組んでいる。学級力(状態)を、学校教育目標に沿って「おもしろい」「かしこさ」「もくひょうに向かう力」「ともに生きる力」の4つに分類し、学級の状態を知る指標とする。年間を通してこのアンケートを実施することで、教師が自分の学級の状態を知り、次なる方策を考える材料とするのはもちろんだが、よりよい集団づくりのためにはどんなことが必要か、どこに価値があるのかを児童自身が意識することもねらっている。また、今後は授業づくりアンケートも活用し、コミュニケーションしたくなる授業づくりを行っていきたい。

(3) 授業づくり部会の取組

今年度は各学年1回、学級活動以外の教科の提案授業を行うこととした。教科の枠にとらわれずに、「コミュニケーションしたくなる授業づくり」を目指すためである。その実現に向けて、「子どもをひきつける導入の手立て」「授業で使える思考ツール、共有ツールの実践」「子どもの問いを生かした単元計画の作成」の3つの視点で授業改善を図っているところである。特に、思考ツールの活用については、どの場面でどんな思考ツールが活用できるか、ICTとの併用の可能性について研究を進めている。

3、実践の成果

全国学力・学習状況調査での学級活動の話し合い活動に関係する質問項目について、H31年度の調査とR4年度の調査を比較し、大きな変容が見られた。

【全国学力・学習状況調査の質問紙調査から】

A「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」(%)

年度	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
H31	17.4	49.3	26.1	7.2
R4	63.8	27.6	5.2	3.4

B「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」(%)

年度	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
H31	18.8	44.9	36.8	0.0
R4	46.6	48.3	3.4	1.7

「当てはまる」の肯定的な回答を比較すると、「Aの質問」においては+46.4ポイント、「Bの質問」においては+27.8ポイントであった。全ての学級において学級会での話し合い活動を重ねたことにより、互いの意見を認め合い主体的に課題を解決する良さや、自分の考えを深めたり広げたりする良さに気づく子どもたちが増えていると考えられる。

また、自分とは違う意見を聞くことができる子どもも多く、他者を受け入れる素地もできてきた。

4、今後の展開

意見を聞き、考えを膨らませたり、発言者に対して反論したりすることに課題がある。今後は、子ども同士がより協働できるように、「伝える力」も高めていきたい。